

# お金に変身!

～金銭にかかわる活動の工夫を通して、  
自他の持ち物を大切にすることができる子どもを育てる～

(総授業時数：2時間)

### 実施学年、教科など

第1学年 特別活動(学級活動)

### 単元(題材)の目標

- ①物を手に入れるときには、お金が必要であることを知る。
- ②物やお金の価値に気づき、自他の持ち物を大切にすることができる。

### 学習の評価

- ①自分が持っている多くの物は、お金で購入していることに気づき、進んで学習に取り組み、持ち物を大切にしようとする。(関心・意欲・態度)
- ②物の価値が分かり、持ち物のより良い使い方を考えることができる。(思考・判断)
- ③持ち物の価値を見直し、身の回りの持ち物を大事にするための工夫を考えることができる。(技能・表現)
- ④身の回りの物もお金に置き換えられることを知り、物の価値が分かる。(知識・理解)

### 展開の特色

- ①お金に関心をもたせるために、お金の模型を使って、10円や100円、1,000円などの価値を、1円玉に置き換えると何枚になるかを示すことにより、量を通してお金の価値を知る。
- ②模型のお金を使って、鉛筆や消しゴムなどの値段を当てる活動をすることで、物の価値とお金の価値を結びつけることができるようにする。
- ③落とし物をお金に変身させる活動を行い、教室にはたくさんのお金に値する物が落ちていることから、自分の持ち物を大切にしなければならないことに気づかせる。
- ④落とし物を擬人化し、「なみだマーク」を「にっこりマーク」に変える活動をすることで、自他の持ち物を大切にしたいという心情を育む。

### その他

- ①事前に、お金に関する経験や消費体験についてのアンケートをとっておく。
- ②教室での落とし物を集めておき、その落とし物の値段を調べておく。

入門  
ガイド

小学校における  
入門ガイド

中学校(社会)に  
おける入門ガイド

中学校(技術・家庭)に  
おける入門ガイド

実践事例

幼稚園における  
実践事例

小学校における  
1学年  
実践事例

中学校における  
実践事例

高等学校における  
実践事例

資料

金融教育に関する  
年間指導計画の例

資料

指導計画

時数	ねらい	学習内容・学習活動
1(本時)	・日常的に使っているお金の違いを知り、それぞれのお金がどんな場面で使われているか知る。	○お金(硬貨や紙幣)の違いを知る。 ・お金の種類 ・5円玉は、1円玉5枚と同じ ○買い物をするとき、どの財布を持っていくのがいいのか考える。 ・黄色い財布・・・小銭ばかり ・青い財布・・・小銭と1,000円札 ・赤い財布・・・10,000円札
2(本時)	・生活の中で使われている物の価値を、お金に置き換えることができる。 ・自他の持ち物を大切にしようとする。	○使っている文房具の値段を当てる活動をし、物には値段があり、物を購入するときには、お金が必要なことに気づく。 ○「落とし物」をお金に変身させることで、教室にはたくさんのお金に値する物が落ちていることを知る。 ○物を大切にする方法を考える。

本時(第1時)の展開 (どのさいふをつかおうかな)

	学習内容	学習活動
導入	1. お金についての学習をしていくことを知る。	○買い物をした経験や、日常、学校で使っている文房具について話し合う。
	2. お金(硬貨や紙幣)の違いを知る。	○模型のお金を使って、知っているお金を確認していく。 1円 5円 …… 1円玉 5枚 10円 …… 5円玉 2枚 …… 1円玉 10枚 50円 …… 10円玉 5枚 100円 …… 10円玉 10枚 …… 50円玉 2枚 …… 1円玉 100枚 500円 …… 100円玉 5枚 1,000円 …… 500円玉 2枚 …… 1円玉 1,000枚 5,000円 …… 1,000円札 5枚 …… 1円玉 5,000枚 10,000円 …… 5,000円札 2枚 …… 1円玉 10,000枚 ※1円玉に置き換えて比べる。
	3. どの財布を使えばいいか考える。 (買う物) ・おやつ ・消しゴム ・おえかき帳 ・ゲームカセット ・鉛筆 ・ハンバーガー ・うわぐつ ・Tシャツ など	○買い物をする時に、どの財布を持っていくのが一番いいか考える。 ・黄色い財布・・・小銭だけ ・青い財布・・・1,000円札と小銭 ・赤い財布・・・大金 10,000円札 ○理由について話し合う。 「ゲームカセットは値段が高いため赤い財布がいいと思う。」 「お菓子を買うには、黄色い財布でいいと思う。」
	4. 学習のまとめをする。	○気がついたことを話し合う。 ○「今日の学習で」(ふりかえりカード)を書く。
展開		
まとめ		

金融教育の視点	指導上の留意点	その他(資料など)
◇物には値段があり、物を購入するときにはお金が必要なことに気づく。 ◇量ではなく、購入したい物の額の違いで財布を選ぶことができるようにする。	☆子どもが知らない金額なので、よく説明する。 ☆生活経験の差が大きいので、子どもたちに各自の体験について発言するよう促し、体験を共有した上で、みんなで考えることができるようにする。	・お財布シート ワークシート(→P.60) No.1
◇落とし物を模型のお金に変身させることで、教室には、たくさんのお金に値する物が落ちていることを知る。	☆文房具など、日常使っている物は、家の人を買ってくれた物だから、大切にしようと思えることができるようにする。	資料 No.1 ~ 資料 No.2 ワークシート No.2 など (「本時の展開」参照)

【本時の目標】

日常的に使用する硬貨や紙幣の違いに関心を持ち、お金に親しみ、適切に使おうとする。(関心・意欲・態度)

金融教育の視点	指導上の留意点	その他(資料など)
◇生活経験と関連づけながら、硬貨や紙幣を提示し、それぞれのお金のもつ価値を量的にとらえるようにする。 ◇10円や100円などを、1円玉に置き換えて比べることで、お金の価値を実感できるようにする。	☆子どもが本時授業に興味・関心をもてるように、貨幣や紙幣は、いろいろな種類があることを知らせる。	・お金の模型各種
◇その財布を持っていく理由を話し合うことにより、それぞれのお金の価値を理解できるようにする。	☆色別の財布を用意し、全員が活動に参加できるようにする。 ☆子どもが、適切に財布を選ぶことができるように、買う物を1つ1つ順序を考えて提示する。	・買う物の掲示物 ・お財布シート ワークシート(→P.60) No.1
◇それぞれの色の財布に入っているお金の価値を振り返り、自分たちの生活の場面で使える財布(お金)を考えることができるよう話し合う。	☆生活経験と関連づけることにより硬貨や紙幣のもつ価値に気づかせ、それぞれのお金の使い方を考えることができるようにする。 ☆これから買い物に行くときには、どんなことに気をつければよいかについてまとめさせる。	・ふりかえりカード

入門ガイド  
小学校における入門ガイド  
中学校(社会)における入門ガイド  
中学校(技術・家庭)における入門ガイド  
実践事例  
幼稚園における実践事例  
小学校における1学年  
中学校における実践事例  
高等学校における実践事例  
資料  
金融教育に関する年間指導計画の例  
資料

入門ガイド  
小学校における入門ガイド  
中学校(社会)における入門ガイド  
中学校(技術・家庭)における入門ガイド  
実践事例  
幼稚園における実践事例  
小学校における1学年  
中学校における実践事例  
高等学校における実践事例  
資料  
金融教育に関する年間指導計画の例  
資料



# 2 小学校における実践事例

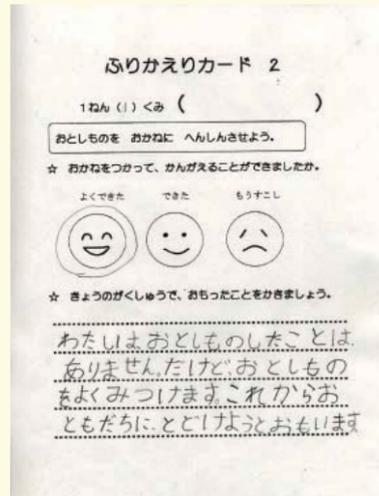
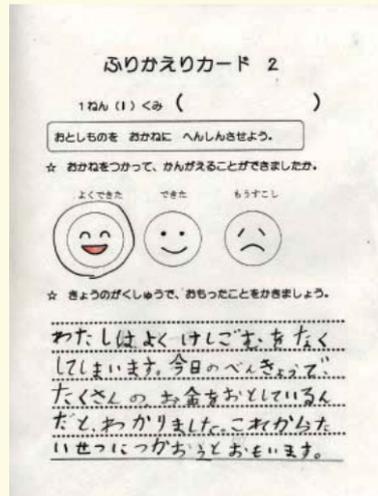
入門  
ガイド  
小学校における  
入門ガイド  
中学校(社会)に  
おける入門ガイド  
中学校技術・家庭に  
おける入門ガイド

実践事例  
幼稚園における  
実践事例  
小学校における  
1 学年  
実践事例  
中学校における  
実践事例  
高等学校における  
実践事例

資料  
金融教育に関する  
年間指導計画の例  
資料

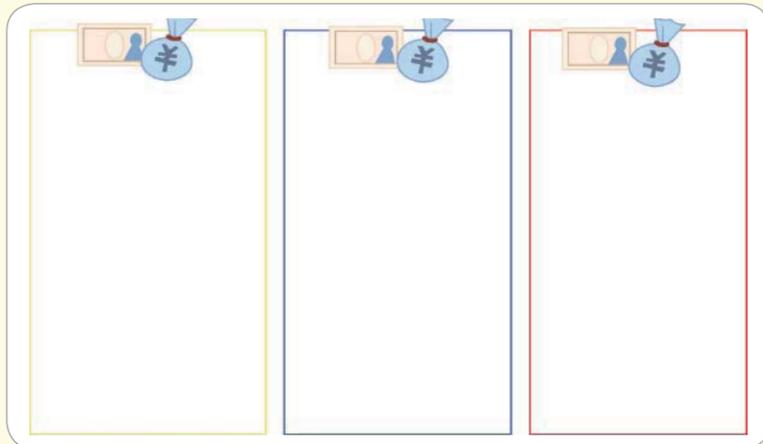
## 実践の記録

### ワークシート No.2 ふりかえりカード



## 教材・資料など

### ワークシート No.1 お財布シート



### 資料 No.1 悲しい顔のカード



### 資料 No.2 うれしい気持ちのカード

